



市埋蔵文化財センター

☎ 23-8020 ⑥

ドキドキ
たいむとらべらー

川嶋明八絵葉書集

二戸・浄法寺両歴史民俗資料館は、資料の収集・保存・研究をもとに、常設展や企画展、講座などを通して市民や来館者に郷土二戸の歴史・文化をつたえる大切な役目を担っています。

さて二戸資料館ではこのほど、最近の研究成果を刊行しました。絵葉書集『壮麗にて驚くこと沢山あり候ー100年前のヨーロッパー』。絵葉書図録ともいえるものです。これは明治41年から、東京大学助教教授だった川嶋明八

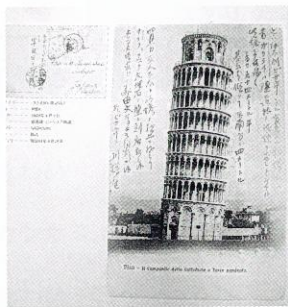
(福岡字下町出身)が文部省海外留学生としてドイツなどに留学した4年間に送った絵葉書が、資料館によって多量に発掘・解読されたのを機に当時の歴史や背景の解説を付してまとめたものです。

絵葉書は、当時日本人がほとんど見ることのなかった欧米の文化・建築・交通・民俗・習慣などの最新の情報・異文化を絵や写真で、リアルタイムに郷里にもたらしました。

明八直筆の「候文」と写真からいろいろな情報が読み取れる美しい絵葉書写真集となりました。

なかには明治43年相馬大伴記念碑建立のニュースと寄付金要請がヨーロッパ在住の明八まで届いていたという、興味深い事実もわかります。

調査研究を通じて絵葉書一点一点が、資料から史料へ格上げされた例といえます。



ピザの斜塔に感銘

こみゅにTeaたいむ

15年目

ぎばって足沢70の会

昨年度、岩手県が地域の活性化に自主的に取り組んでいる町内会や地域団体を選定する「元気なコミュニティ100選」に選ばれた「ぎばって足沢70の会」を紹介します。

「ぎばって足沢70の会」は平成15年8月、集落内に経済効果をもたらすことを目的に結成されました。「ぎばって」は「きばって」の強調語、70は足沢地区の世帯数から名付けられました。

これまで毎年、秋の収穫祭「足沢の旬を楽しむ会」や冬の「小正月体験祭り」などを行ってきましたが、最近は、きのこオーナー制度や山菜採り体験ツアーも取り入れるなど多彩な活動により、地域内外から多くの人を集め、足沢ファンを年々増加させ、地域活性化を図っています。

その結果、会員や協力している住民たちは地域の宝の大切さ、素晴らしさを再認識するとともに、誇りと自信を深めています。

足沢地区には今年度から5年間、国の「農

山漁村地域力発掘支援モデル事業」が導入されます。交流人口の拡大による地域活性化を推進するため「足沢ふるさとづくり協議会」を組織し、「たるさわ千年の里づくり」をめざした「ふるさとづくり計画」を策定し、その実現に向けて取り組むことになりました。「ぎばって足沢70の会」は協議会の中心的役割を担い、さらなる活躍が期待されています。

◇足沢の旬を楽しむ会

日時 9月21日(日) 10:00～15:00

場所 足沢生活改善センター

内容 雑穀畑見学、昼食バイキング交流会、へちよこだんごづくり、野菜収穫体験、魚のつかみ取り、竹てっぽうや笛づくり、産直販売、その他

参加料 (昼食バイキング交流会) 大人1,500円(中学生以上)小学生500円、幼児無料

問い合わせ、申し込み先 上野(☎・FAX28-2354)



へちよこだんごづくりを体験

この欄の問い合わせは、市地域づくり推進課(内線653)まで